

令和元年第4回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

令和元年 6月11日 (開会)

令和元年 6月13日 (閉会)

13時10分 再開

○議長（伊藤敏夫） 再開いたします。

○議長（伊藤敏夫） 次に5番、萩野芳紀君の発言を許します。5番 萩野芳紀君

（5番 萩野芳紀議員 一般質問席登壇）

○5番（萩野芳紀） それでは一般質問をさせていただきます。

まずは4月に行われました選挙におきまして、お互いにですが、4年間の勉強期間をはさみ激戦を制し当選、こうしてこの場に4年ぶりに対峙できますこと、気持ちが高ぶっております。

村民も中田村政には大変期待していると思います。私も4年間しっかりと頑張りますので、熟慮した真剣な回答をお願いします。ただ、激戦の結果としては、村民のほぼ半数は反対だった、このような事実は変わりませんので、これからはその半数の村民を納得させるような堅実な村政をお願いしたいと思えます。

私達議員も村政の番人として、しっかりと取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

それでは本題に入らせていただきます。

少子高齢化対策の促進を、中田村政はどのように考えているかということでございます。

初めに、秋田県の高齢化率1989年14.8%、それが30年後、2018年には36.4%、約30年近くの間には倍以上に上がっています。

先ずこれを前置きとしまして話させていただきます。我が上小阿仁村は5月末の人口が2,284名、65歳以上の人が1,171名、高齢化率が51.3%、今、全県一の高齢自治体です。

団塊の世代と言われる私達の世代が65歳～75歳前後であり、我が村の人口構成においても非常に多い割合であります。村の重要な役割を果たしている人もこの中には非常に多いと思います。この世代の人達、さらにはそれ以上の年齢の人達、特に1人暮らしの女性が外出に非常に苦労しているという事実です。これは村長が掲げている移動販売車ともリンクしている問題だと思います。いわゆる交通弱者ということです。また、最近は社会問題もあり免許返上者も増えています。

これは村長も分かっていると思います。高齢者の殆どの方が免許は返上したいが、それでは移動、外出に困ってしまう。その結果、ためらい、事故に繋がる、まさにこれは負のスパイラルということでもあります。ちなみに2018年県内の免許返上者は、前年より174名減っています。4,493人。そして今日、朝の魁の報道で見ましたが、高齢者の移動の足の確保のため、75歳以上を対象にし

た高齢者免許制度が創設されると出ていました。国もその重要さによりやく動きだしました。

我が上小阿仁村としても、返上を促すため他の自治体がやっているように、例えば、バスも走っていますが、バスの無料券配布等とか何らかの施策は考えられないものでしょうか。もしくは無料券でなくても構いません。返上者に対する何かがあれば、またそれは進むのでないかと思っております。

また、村長はこれらの方々、外出不自由者の買い物対策として選挙公約で移動販売の導入を挙げていましたが、これは先ほどお話があったので質問はいたしません。この進行状況はいかがなものか、こういうことがありましたけれども、これは先ほど伺っておりますので構わないです。ただひとつ伺いたいのは、村長は、雇用は村外から募集すると言っていますが、村内在住者では駄目なものか、ここはお聞きしたいと思っております。

また、話は変わりまして、高齢者の補助という面で、村で交付している福祉タクシー券があります。交付者の範囲の拡大なんかは考えられないでしょうか。これは障害者手帳を持っている方に配布されていると伺っています。現在は村内で、その方々は約2名、そして、この方々には年間12枚配られていると聞いています。これをもうチョット交付者の範囲、障害者手帳を持っていない方でも何らかの形で範囲を拡大するものを考えられないものでしょうか。例えば、冬には除雪の手伝いで範囲が例えば80歳以上の独り暮らしの人とか、そういうふうに考えて交付範囲を、このタクシー券を拡大していただけないものか、こういうことも伺いたいと思います。

そして、この券についても他の利用者がよく知らない方がいるのです。どうやったそれを貰えるかと、この辺のことも説明して欲しいなと思っております。ここにいる方々も貰ったことに関してどのくらいご存知か、貰っているという程度くらいしか知らないのではないか分かりません。私も実は障害手帳を持っている人だけということで、今日、初めて聞いた次第なんですけれど、恥ずかしい限りです。そのようなことで、もっと皆さんに伝わるようお願いしたい。

先ず、高齢者の部分は、これぐらいにいたしまして、次、少子化対策、これは少子化ということに対して、これは10月に消費税の値上げが実施されまして、これを財源とした保育料や、来年4月からの高校の無料化、公立校だけでなく、私立校まで拡大されると聞いています。国で決めた政策はこのようなものですが、村の政策は何かないかなというものを伺いたい。実は私は、前回、議員をやっていたとき保育料の無料化は言っていました。この時点では検討課題ということで中田村政では実施はされませんでした。それともうひとつ言ったのはインフルエンザワクチンを無料化ができないか、これも質問しました。これも検討するというので、そのまま実現はされていません。保育料の無料化は実

現されますが、給食費やインフルエンザワクチン、私、当時は言ったつもりなんです、この辺のことも色々検討する課題でないかなと思います。

少子高齢化の人口減少に関しては上小阿仁が先ず考えることは、その減少幅の進行スピード、これを遅くする努力とともに、村民が暮らしやすい地域を作る必要があると考えます。そして、この少子高齢化の問題は非常に奥が深くて、子ども、お年寄りだけでなく、若い人達も含めた問題、今いる人間、すべてに関係する問題ですので、簡単には解決はできません。したがってこの問題は、私が4年間、議員をやっている以上、何度も形を変えて質問させていただきますので、今からいろいろその辺の検討を、これは県の課題でもあります。国の課題でもありますので、村の課題としても、4年間ずっとこれを考えて欲しいと思います。

あと最後に、中田村長独自の政策、何かこの辺に付随したよう政策を考えて欲しい、こういうのが私達、そして村民の思いだと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（伊藤敏夫） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 萩野議員の一般質問にお答えしたいと思いますが、なかなか質問の内容、それが私にはよく伝わってこない。何を聞きたいのかということ。

1番最初に質問された、書いてありました文書から私なりにこういうことではないのかなというふうな形で一応答弁は書いてきましたけれども、どうも私が文書から考えたのと少し違うようなので、どういう答弁をしたらいいのか実際のところ大変迷っています。

バスの高齢者が大変困っていると、特に女性の方が困っているというご質問でありましたけれども、男性、女性というのは、ここで差別をつけられません。ですので、ただ高齢者が免許を返納したりして困っていると、足がなくて困っていると、ただ、それが何に困っているのかなというのが分からないわけです。買い物に困っているのか、医療に困っているのか、レジャーに行くのに困っているのか。そこらへんが分からなければ、それなりの答えがなかなか出せないということ。

ただ、バスの無料券の発行とかそういったものは、果たして皆に大盤振る舞いして、村が成り立っていくのかなということを考えれば、今まで確か定期券の半額補助、それから高齢者の方々にも半額補助、定期券半額補助みたいなものを行っています。ですから、そういったものを活用してもらってやってもらいたいなというふうに答弁します。

それから、移動販売車の件についてですけれども、先ほども武石議員の時にチョット詳しくお話をしたのですけれども、村は1番困っているのは、人口減少、高齢化なんです。

それを少しでも緩やかにしていくということ、それから村のいろんな政策、子育て支援とか、子ども方へ対する教育の支援、これは他所と比べても、もう進んでいる、そういったものをアピールするためにも、外からの人を呼んで、そして情報発信していきたいという、そういう気持ちであります。ただ、失業対策にこれを走らせるわけにはいかないということでございます。

あと、福祉タクシー券の交付ですけれども、私もよく分からないですけれども、身体障害者方が持っている、券を持っている方に対して年に12枚ですか、回数券みたいなのを発行していると、それはたぶん身体障害者の方は、バス停までも行けない、そういう方に対する、私はこれ福祉タクシー券だと思っています。病院に行く時とか、そういう時のために使えるタクシー券だと思っていますので、交通弱者のための券ではないはずです。福祉タクシーということですから、ですからNPO法人でも、多分こういう方を乗せたり、家まで迎えに行行って乗せて病院へ行ったりしているのではないかなと思います。

これをまた一般の人まで拡大するとなれば、費用的な面もですけれども、主旨の違いが分からなくなってしまう。村独自でやっていることに対して分からなくなる。そういう可能性があるので、これはチョット無理でないかなと、まあ、検討はしますけれども、もっといい方法があれば議員の方から提案されていただければ、そのように考えてみたいなというふうには思います。

あと保育園の無料化は今年なります。それから、給食費の方も無料化にします。もうはっきりしています。高校生までの授業料、これは国と同じようになりますし、あと中学生の給食費、これも無料化にします。ですから、保育園から中学生までは、すべての給食費関係は無料化になりますので、他に聞かれてもアピールする力はあると思います。

私は中学生とか給食費が無料化になっているところも県内にも八郎潟町とかいろいろありますけれども、そこに追いついていきますので、それから村独自の政策としては、子育て子宝祝い金とか、いっぱいあるのです。ですから、そういったものを色々活用しながら、子育てしてもらえれば、私は上小阿仁で子ども育てるのは、すごく費用がかからなくて、私はいいと思います。

それから先ほどインフルエンザの補助の問題ですけれども、あれも小中学生までですか、これは半額補助になっている。確か2,000円の補助になっている。大人の我々も補助なっておりますので、無料にはまだなっていませんけれども、後で、これ私もらったのですけれども、各種の条例から拾い集めた補助制度とかそういったものですけれども、毎年、これ厚くなっているのです。

これだけで予算が組めるのです。それぐらい村は手厚くなっています。ですから、議員の人にも少し考えてもらいたいのは、財源が、やっぱりこれからは、我々もそうですけれども、財源をどうするかということを考えていかなければいけないと思います。ですから、皆さんと共に考えていきたいのは、いくらでも安くどこでも住みよくしたい。しかし、財源がなければ、基金をどんどん使ってしまうと、あと私4年間で済めばいいと思えば、1年に10億円ずつ使います。でも、それでは、村は継続できません。継続できるように皆で知恵を出して、そして、やっていかなければいけないと思います。

ですから、これから議会の度に萩野議員が先ほどおっしゃってひとつひとつ物事を良くなるのまで、何度でも質問されれば、私、それに応えて頑張っていきますので、よろしく願いいたします。

○議長（伊藤敏夫） 5番、萩野芳紀君。

○5番（萩野芳紀） ありがとうございます。色々やっていただけるものと期待しております。

少子化によれば制度も保育料の無料化、いろいろ給食費の無料化、色々ここ数年で改善されています。私の目指すところは、最後はインフルエンザワクチンのところまで将来的にはやっていただけるのではないかと、このようなことを考えて今回質問させていただいていますので、前回より4年後、6年ぐらい経ちましたけれども、またその6年後には良かったなというような、村長は替わるか知れませんが、出てくるのではないかと考えておりますので、よろしく願いします。

あと、1番最初に言った高齢者の女の方と言ったのですけれども、本当はそういう意味で言ったつもりでなかったのですけれども、結果的にそうってしまったと、80歳くらいでも男の人は車を運転しますが、女の方は80歳くらいまで、昭和20年代以前生まれの方なんかは高齢になっていて免許をとっていない。私らの戦後世代は、50、60くらいになっても免許とっていたんです。だからある程度この世代までは免許を持っているんですけれども、その以前の人たちは殆ど持っていない人が多いんですよ。私、何人も乗せて歩いていますが、大体そういうことがあるので、その辺を例にとって女の方と言ったので、特定して女の方と言ったわけでございませぬので、その辺のところはご理解ください。

まず、今回はこれだけ言わせていただきますけれども、先ほど言ったように、この少子高齢化の問題は、何も高齢者と子ども達だけではありません。また、若い人達が、子どもが生まれるような結婚とか、これも少子高齢化ともリンクしたことで、このようなことも含めて、今後、何回かは4年間の間にこの質問はさせていただきます。前触れとしていただきます。

以上です。あと回答はいりません。